

肥前さが幕末維新博事務局

I 豊かさ好循環の産業 さが

I—I 企業立地・商工業

1 伝統的地場産業の振興（物産斡旋費）

① 事業の目的

- 伊万里・有田焼について、有田焼創業 400 年を機に、次の 100 年に向けた有田焼の新たな発展の第一歩となるよう、海外展開をはじめ、新たな市場開拓などに取り組むとともに、併せて観光や文化などの他の分野とも連携し、佐賀ブランドの確立や佐賀県のプレゼンスの向上を図る。
- 伊万里・有田焼産地の売上高については、平成 30 年までに 51.0 億円とすることを目指す。
- 伊万里・有田焼産地の輸出額については、平成 30 年までに 3.5 億円とすることを目指す。

② 事業の実績

(単位：千円)

事業名	28 年 度		前 年 度	
	(予算現額) 決算額	事業内容	(予算現額) 決算額	事業内容
有田焼創業 400 年事業[地方創生関連交付金]	(764,275) 761,937	・有田焼創業 400 年記念 イヤー事業開催 ・「食」とのコラボによる 新たな市場開拓 ・オランダ王国大使館と の連携協定に基づく 人的交流、商品発表、 プロモーション ・産地及び首都圏等にお ける各種プロモーシ ョン開催	(782,738) 763,507	・欧州国際見本市への出 展 ・ミラノ国際博覧会にお ける P R ・「食」とのコラボによる 新たな市場開拓 ・オランダ王国大使館と の連携協定締結に基づ く人的交流、商品開発 ・伊万里・有田焼特別企 画展開催などによる焼 き物文化の発信

③ 事業の成果

- 有田焼創業 400 年事業については、平成 25 年 9 月に策定した「有田焼創業 400 年事業／佐賀県 プラン」に沿って、欧州を代表する国際見本市への出展などによる「市場開拓」、オランダとの連携によりプラットフォーム形成を目指す「産業基盤整備」、各種媒体を活用した国内外への「情報発信」、この 3 つを柱に様々なプロジェクトを立ち上げ、産地事業者の支援に努め、欧州でのリブランディングや国内外での新たな市場開拓を促進した。
- 伊万里・有田焼産地の売上高（平成 28 年目標 48.3 億円に対し実績 40.4 億円）は、有田焼創業 400 年事業等への取組により、新商品の開発や新しい販路の開拓等で売上を堅調に伸ばす企業が一部に見られるものの、産地全体の売上高を上向かせるまでには至っていない。
- 伊万里・有田焼産地の輸出額（平成 28 年目標 2 億円、実績は未公表（平成 27 年目標 1.5 億円に対し実績 1.6 億円））は、有田焼創業 400 年事業における海外市場開拓等に取り組んだ結果、総合計画 2015 策定時の平成 25 年は 0.5 億円であったものが、平成 27 年には 1.6 億円と伸長した。

④ 総合計画 2015 指標の達成状況

指標名	単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
		(目標) 実績	(目標) 実績	(目標) 実績	(目標) 実績
伊万里・有田焼産地の売上高 (暦年)	億円	(47.0) 40.8	(48.3) 40.4	(50.0)	(51.0)
伊万里・有田焼産地の輸出額 (暦年)	億円	(1.5) 1.6	(2.0) —	(2.7)	(3.5)

⑤ 現状と課題、要因分析、対応方針

＜現状・課題＞

- ・ 伊万里・有田焼産地の再生を目的に、平成 25 年度から有田焼創業 400 年事業に取り組み、県が新たな事業展開を牽引することにより、産地が自立的かつ持続的に発展していくための礎を築いていくことを目指し、欧州を代表する国際見本市への出展などによる「市場開拓」、オランダとの連携によりプラットフォーム形成を目指す「産業基盤整備」、各種媒体を活用した国内外への「情報発信」、この 3 つを柱に様々なプロジェクトを立ち上げ、4 年間にわたり産地事業者の支援に努めてきた。
- ・ その結果、新たに開発した有田焼は海外のメディアやバイヤーからも高い評価を得て、世界的なファッショントランドとの成約や世界的なデザイン賞を受賞するなど、国内外、特に欧州でのプランディングと市場開拓に確かな手応えを得た。
- ・ オランダとの連携・交流をはじめ、各界のクリエイターやトップシェフ、全国の伝統工芸産地などとのコラボにより、多様なネットワークを形成するなど、事業効果は徐々に発現してきており、それに伴い、売上げを伸ばす事業者も一部には見られるものの、ピーク時の 6 分の 1 まで低減した産地全体の売上高を上向かせるまでには至っていない。
- ・ 伊万里・有田焼産地では、有田焼創業 400 年事業を通じて、新商品開発・販路開拓等の新たな取組にチャレンジする事業者が増えてきているものの拡がりが少ない。

＜要因分析＞

- ・ 伊万里・有田焼産地では、産地を牽引するような新商品開発・販路開拓等の意欲的な取組を行う事業者が固定化してきている。
- ・ 有田焼創業 400 年事業には、産地事業者全体の約 1/3 に当たる約 80 の事業者が参加し、産地再生に向けた産地内の機運は高まっているが、国内外、特に海外との取引成約までには一定の時間を要することから、販売面での事業の効果は未だ十分に発現しておらず、売上増につなげている事業者は少数にとどまっている。

＜対応方針＞

- ・ 有田焼創業 400 年事業で培った事業成果については、横展開を図り、伊万里・有田焼以外の地場産業や県産品の振興に活用するとともに、観光や文化、地域づくりなどの関係部局において、その有効活用を図っていく。

II 文化・スポーツ・観光の交流拠点 さが

II—I 文化

1 特色ある地域文化の保存・継承と魅力発信（企画調査費）

① 事業の目的

- 平成 30 年に明治と改元されてから 150 年を迎えることを契機として、佐賀の偉業や偉人を顕彰し、その「志」を礎とした人づくり、地域づくりを行うとともに、世界遺産に登録された三重津海軍所跡をはじめとした本県が誇る本物の遺産などの文化的、歴史的な魅力・価値について、県内外に伝えていくことにより、県民の誰もが佐賀を大切にし、佐賀のことを誇りに思う気持ちを高めていくことを目指す。
- 佐賀県の文化的、歴史的な魅力・価値を通して、佐賀のことを誇りに思っている県民の割合について、90%以上とすることを目指す。
- 世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である三重津海軍所跡は、一目でその価値が分かりにくい埋蔵文化財であることから、見せ方を工夫して来訪者の満足度を高めるとともに、来訪者増に向けた情報発信の取組等を行うことにより、三重津海軍所跡への年間来訪者数を 10 万人とすることを目指す。

② 事業の実績

(単位：千円)

事業名	28 年 度		前 年 度	
	(予算現額) 決算額	事業内容	(予算現額) 決算額	事業内容
<主要事項> 明治維新 150 年記念 事業計画策定	(9,863) 9,863	○事業計画策定 ・現状分析 ・事業内容の検討 ・実施体制の検討	—	—
<主要事項> 明治維新 150 年記念 情報発信事業[地方 創生関連交付金]]	(40,000) 40,000	○情報発信 ・新聞、テレビ など ○関連イベント ・シンポジウム開催	—	—
世界遺産登録・活用 推進事業	(20,066) 19,042	○普及啓発・広報 ・出前講座 ・記念イベント ・広報ツール作成等 ○佐賀市への補助 ・来訪者対策（案内誘導員、周辺警備、ガイド養成、パンフ作成）	(54,668) 54,558	○普及啓発・広報 ・出前講座 ・シンポジウム ・特別企画展 ・広報ツール作成等 ○佐賀市への補助 ・来訪者対策（案内誘導員、臨時駐車場、周辺警備、遺構表示、多言語対応等）

		○関係県市連携事業 ・世界遺産協議会負担金（世界遺産委員会決議への対応、理解増進事業、人材育成等）		○関係県市連携事業 ・世界遺産協議会負担金（世界遺産委員会審議への対応等）
世界遺産登録・活用推進事業	(37,506) 37,500	○情報発信・誘客対策 ・体験型の集客イベント開催 ・イベント告知を兼ねた情報発信（九州版旅行雑誌等） ○現地コンテンツの充実 ・団体対応のための現地コンテンツ整備（ドームシアター）	(33,616) 33,474	○情報発信・誘客対策 ・専用WEBページ ・WEB広告 ・テレビCM ・交通広告 ・モニターツアー等 ○関係県市連携事業 ・世界遺産協議会負担金（周遊促進のためのアプリの開発）
世界遺産登録・活用推進事業〔地方創生関連交付金〕	(3,553) 3,553	○関係県市連携事業 ・世界遺産協議会負担金（周遊促進のためのアプリへの付加価値追加）	(0) 0 (全額翌年度繰越)	○関係県市連携事業 ・世界遺産協議会負担金（周遊促進のためのアプリへの付加価値追加）

③ 事業の成果

- ・ 三重津海軍所跡の年間来訪者数を10万人とすることを目指して情報発信及び誘客対策、並びに現地コンテンツの充実に取り組んだ結果、世界遺産登録年度（平成27年度）の実績は下回るもの、目標とする来訪者数は達成できた。

④ 総合計画2015指標の達成状況

指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		(目標) 実績	(目標) 実績	(目標) 実績	(目標) 実績
佐賀県の文化的、歴史的な魅力・価値を通して、佐賀のことときを誇りに思っている県民の割合	%	(一) —	(一) 64.4	(80.0)	(90.0)
三重津海軍所跡の来訪者数	人	(100,000) 181,280	(100,000) 124,730	(100,000)	(100,000)

⑤ 現状と課題、要因分析、対応方針

<現状・課題>

- ・ 幕末・維新期を中心とした佐賀は、数多くの分野で全国的に活躍する人材を輩出し、新しい国づくりに関わるなど、日本の近代化を進めるうえで、大きな原動力となったが、偉業や偉人は、十分に認知されていない。
- ・ 平成28年度における三重津海軍所への来訪者数は、世界遺産登録で大きな注目を集めた平成27年度と比較し約3割減少している。
- ・ 三重津海軍所跡では本格的なガイダンス施設が整備されておらず、史跡に隣接する佐野常民記念館内で暫定的なガイダンスが行われている。来訪者の満足度向上とリピーター獲得に向けて県が整備した現地コンテンツ（VR機器やCG映像を活用したコンテンツ）は、ガイドによる解説等と相まって来訪者から高い評価を得ているものの、遺構の実物を見たい、遺構や船の大きさを体感できるものが欲しい等の声が根強く寄せられている。

<要因分析>

- ・ 佐賀の偉業や偉人を、県内外に広く紹介し、認知してもらうための取組が十分でない。
- ・ （元々著名な観光地ではなかったところが世界遺産に登録された）先行事例でも見られる傾向ではあるが、世界遺産登録から一定期間が経過したことで目新しさが失われ、また、実物の遺構が見られないこともあって、一般観光客の来訪動機が弱まり、来訪者数減少につながっている。
- ・ 暫定的なガイダンスでは、スペースや展示環境の制約もあり十分な展示解説が行えておらず、遺構の実物を見てもらうことができない理由についても十分に理解してもらうことができていない。

<対応方針>

- ・ 明治維新150年を迎えるに当たり、佐賀の偉業や偉人を多くの方に認知してもらうため、平成30年3月から「肥前さが幕末維新博覧会」を開催する。また、全県的な盛り上がりや博覧会開催に向けた機運を高めるため、リレーシンポジウムなどイベントの開催、県内外でのプロモーション及び市町の顕彰事業の支援等を実施する。
- ・ 三重津海軍所跡の認知度向上だけでなく、実際の誘客、特に福岡県からの誘客につなげることを意識した情報発信やイベントなどの仕掛けづくりを行うとともに、観光部局と連携し観光素材としてPRや売り込みに取り組む。
- ・ 現在高い評価を得ている現地コンテンツを適切に運用するとともに、本格的なガイダンス施設の整備に向けた佐賀市の検討状況を見ながら、必要に応じて県としての支援を検討する。